

大阪の絵馬堂めぐり

村田 幸雄

【目的】

大阪の社寺の中には、絵馬堂を有するところがある。住吉大社、杭全神社、高津宮、大鳥大社、道明寺天満宮等々。絵馬堂には様々な画題の大絵馬（奉納額）が飾られているが、これら的大絵馬（奉納額）については、薄汚れている、何が描かれているのかよく解らない、解説書も無い、というのが一般的な印象である。しかし、よく見ると、大絵馬（奉納額）から、社寺の歴史や、大阪の歴史・文化の一端を窺い知ることが出来る。そこで、従来あまり注目されてこなかった大阪の大絵馬（奉納額）を紹介し、大阪の社寺めぐりの一つ素材として提供したいと思う。

【内容】

代表的な40の大絵馬（奉納額）については、個々の実物写真と説明（社寺の絵馬堂以外に飾られた奉納額も含む）を「付属資料」としてまとめた。

本文では、大阪の大絵馬（奉納額）を、以下11のテーマに絞り、紹介したい。

- ①住吉の多面性を象徴する絵馬堂の絵馬群（住吉大社）
- ②著名人の描いた奉納額（高津宮、道明寺天満宮、産土神社、水間寺）
- ③大鳥大社の境内に神社と寺があったことを示す2つの扁額（大鳥大社）
- ④銭形平次の投銭と同じ寛永通宝で作られた奉納額（服部天神）
- ⑤鎖国の江戸時代、海外の文化（朝鮮通信使）に触れた喜びを氏神に感謝の奉納額（美具久留御魂神社）
- ⑥末吉道節が奉納した鳥の奉納額（杭全神社）
- ⑦地元の英雄・楠公さんの奉納額が各地に残っている（蟻通神社、白鳥神社他）
- ⑧和算の難問が解けたことを神に感謝の算額（大阪天満宮、生国魂神社）
- ⑨戦争中は戦意高揚と戦勝祈願、戦後は無事帰還を神に感謝の奉納額（住吉大社他）
- ⑩明治天皇・皇后に富田踊りを披露した記念の奉納額（三輪神社）
- ⑪能勢妙見山の絵馬堂には、妙見講の奉納額がいっぱい（能勢妙見山）

【結果】

絵馬には、「小絵馬」と「大絵馬」の2種類がある。「小絵馬」は、祈願者が社寺から購入し身近な願い事を書いて奉納されるもので、「大絵馬」は、祈願者が人生の節目に専門の絵師に描かせ社寺に奉納し、絵馬堂等に飾らせるものである。

「小絵馬」については、昨年度「大阪三十三ヶ所絵馬めぐり」としてまとめ、本年度は、「大絵馬」について、「大阪の絵馬堂めぐり」としてまとめた。「小絵馬」、「大絵馬」併せて「大阪の絵馬めぐり」の総まとめが出来た。

1、絵馬堂の魅力

社寺参詣の折、仏像や庭園・建物等は注目されるが、絵馬堂は素通りが実態。絵馬堂の大絵馬（奉納額）は、薄汚れていて何が描かれているのがよく解らないが、よく見ると、社寺の歴史や大阪の歴史・文化の一端を描いたものが多くある。中には著名人が描いたものもある。絵馬堂は、歴史、文化の宝庫ともいえる。

2、独断と偏見で選んだ大阪の40の大絵馬（奉納額）について、付属資料「大阪の大絵馬案内」で、実物写真と説明を記載。

3、以下で、大阪の大絵馬（奉納額）を11のテーマに絞って紹介。

（大絵馬の後の番号は付属資料の番号）

①住吉の多面性を象徴する絵馬群（住吉大社・絵馬堂）

- ・「かっぱれ生誕200年」⑩ かっぱれは、江戸時代末期に豊年齊梅坊が住吉踊りをアレンジして浅草寺で演じたのが始まり。かっぱれのルーツは住吉踊りにある。
- ・旧海軍関係の奉納額 「巡洋艦加古」⑪ 元乗組員が無事帰還を感謝して奉納。「報国丸のマストの故事」⑫ 日露戦争の旅順港閉塞作戦で戦死した広瀬中佐等の勇士を称え奉納。海の神としての住吉神への奉納額。
- ・「能・岩船」⑬ 時の帝に高麗や唐の宝物を手に入れるように命じられた勅使が住吉浦に出向く話。海外交易の発着地としての住吉を象徴。
- ・「舞楽・還城楽」⑭ 蛇を好んで食べた西域の人が蛇を見つけて喜ぶ様子を演じる舞楽の奉納額。大陸との交流を示す奉納額。
- ・素謡関連の奉納額 ⑮⑯ 高砂、梅枝等、謡曲には住吉と関係深い演目が多い。文芸の神・住吉を象徴する奉納額。
- ・「大阪府弓道連盟」⑰、「天神真揚流柔術の奉納額」⑱ 神功皇后の故事から、武神としての住吉神への奉納額。
- ・「日本廻国一之宮巡拝満願成就」⑨ 住吉大社は摂津一之宮で、摂津で一番格式が高い神社。

②著名人の描いた奉納額（高津宮、道明寺天満宮、産土神社）

・高津宮絵馬堂

- ・成瀬国晴「上方落語・高津の富」④ 成瀬はイラストレーターで似顔絵を得意。上方落語の聖地・高津宮にふさわしい奉納額。
- ・小灘一紀「仁徳天皇が民のかまどの烟を見る図」③ 小灘は堺美術協会の会長で、日本神話の神々を多く描いている。仁徳天皇は高津宮の御祭神。
- ・穂束とよ國「4代目坂田藤十郎襲名祈願」⑤ 夏祭浪花鑑の団七九郎兵衛を描いている。
- ・穂束宣尚「4代目中村鴈治郎襲名祈願」⑥ 吉田屋・藤屋伊左衛門を描いている。

穂束親子は、関西の歌舞伎絵師で、大阪松竹座、京都南座等の歌舞伎絵看板を手掛けている。

- ・道明寺天満宮絵馬堂
 - ・2代目長谷川貞信「3代目片岡我當 興業祈願」③⑥ 2代目長谷川貞信は、「浪花十二景」のように明治初期の文明開化の風景を描いていることで知られている。
- ・産土神社（拝殿）
 - ・鳥居清信「朝比奈草摺曳図」③⑦ 鳥居清信は鳥居派の元祖で、江戸歌舞伎の荒事を描くことを得意とした。清信は「ひょうたん足」、「みみずかき」という誇張的な描法で鳥居派の様式を定め人気を得た。後に鳥居派は、江戸三座の歌舞伎絵看板を独占。
- ・水間寺本堂
 - ・2代目高松彦四郎「蓮の葉に水間寺の御詠歌（みなかみは 清き流れの水間寺 願う心の底は にごらじ）の彫刻奉納額」③⑧ 2代目高松彦四郎は明治初期を代表する地車の彫り師で、名人と称された。

③大鳥大社の境内に神社と寺院があったことを示す2つの扁額（大鳥大社・絵馬堂）

「大鳥宮」③⑩ は大鳥大明神社の扁額。

「大鳥山」③⑩ は大鳥山神鳳寺の扁額。

和泉名所図会にも、同じ境内に神社と寺院が描かれている。明治維新の神仏分離令で神鳳寺は廃棄され神社だけが残った。

④銭形平次の投銭と同じ寛永通宝で作られた奉納額（服部天神・祖霊社）②③

寛永通宝真鍮4文銭（裏に11波の波形があり、明治中期まで流通していた）で作成された珍しい奉納額。

銭形平次の作者・野村胡堂の「胡堂百話」によれば平次の投銭も寛永通宝真鍮4文銭とのこと。

⑤鎖国の江戸時代、海外の文化（朝鮮通信使）に触れた喜びを氏神に感謝の奉納額（美具久留御魂神社・拝殿）④⑩

元禄8年（1695）に奉納され、天和2年（1682）の第7回將軍綱吉襲封祝賀の朝鮮通信使を乗せた川御座船を描いている。奉納者の喜志桜井村の平蔵等11名の名前がある。正使・副使・従事官や世話役の西国大名の旗が描かれている。通信使達は、尻無川の幕府・御船蔵で船底の浅い御座船に乗り換えた。

通信使の一団を見るために、近在から数十万人の見物客が押し寄せ立錫の余地も無かった、と伝えられている。

⑥末吉道節が奉納した鳥の奉納額（杭全神社・絵馬堂）⑧

杭全神社はかつて平野熊野権現と呼ばれ、御祭神は熊野権現。鳥は熊野権現の神使。末吉道節は平野の豪商・末吉家の分家で江戸時代前期の俳人で

「しろうるりの道節」（「もしあはば 雪女もや しろうるり」が有名）と呼ばれた。

⑦地元の英雄・楠公さんの奉納額が各地に残っている（蟻通神社他）

- ・楠親子桜井の駅の別れ 蟻通神社③④、蹉跎神社②④、萩原天神③⑩
- ・楠正成（嗚呼忠臣楠公） 井於神社②②
- ・楠正行渡辺合戦義戦の囃 白鳥神社③⑨ 渡辺合戦で敵軍の兵五百数十名を正行軍が救った場面を描いている。この話が欧米人に感動を与え、日本の赤十字加盟が認められた。

⑧和算の難問が解けたことを神に感謝の算額（大阪天満宮他）

- ・大阪天満宮① 文化5年（1808）の算額を平成10年に復元した宅間流の算額。
宅間流は大阪船場を中心に栄えた和算の一派。
- ・生國魂神社天満宮⑦ 元文4年（1739）の算額を平成4年復元。
宅間流三世鎌田俊清の門人山口幸次郎の算額。
鎌田俊清は独自の方法で享保7年（1722）に円周率を25桁まで得ていた。
- ・上宮天満宮「天元一」②⑩ 「天元一」は和算で、未知数Xのこと。

⑨戦争中は戦意高揚と戦勝祈願、戦後は無事帰還を神に感謝（住吉大社他）

- ・戦意高揚と戦勝祈願
住吉大社・報国丸の故事⑫ 日露戦争で決死の覚悟で旅順港閉塞作戦に参加した広瀬中佐等を称える奉納額。
桜井神社・肉弾三勇士に感謝の奉納額②⑥ 昭和7年2月22日上海事変の際、爆弾を設置して帰還する予定の兵士3名が誤って爆死。政府、マスコミが覚悟の自爆とし、軍神に祀り上げ軍国美談にした。
- ・無事帰還を神に感謝
住吉大社・巡洋艦・加古の元乗組員が無事帰還を感謝①①
萩原天神・日清戦争から無事帰還を感謝②⑨

⑩明治天皇/皇后が富田踊りを観覧した記念の奉納額（三輪神社絵馬堂）②①

明治天皇・皇后は明治20年（1887）2月の大阪行幸の帰路、高槻で下車。その折、地元の女性50人による富田踊りを見物された。この光栄を永遠に留めようと奉納額を氏神に奉納。

⑪妙見講の奉納額がいっぱい（能勢妙見山・絵馬堂）①⑨

妙見講を結んだ村は、摂津・丹波・山城3カ国で100ヶ村に及ぶといわれている。摂津名所図会は「日参、月参の詣人間断なし、京師、大坂などは講結してここに籠るもの多し」と記述している。